

資源管理に必要な情報の提供事業

漁海況予報関連調査

中瀬優・岡田 誠・程川和宏・藤原正嗣

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週 1 回発行した。

結果の概要

詳細については平成 23 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、平成 23（2011）年 3 月から C 型流路となっていた。4 月下旬に小規模な B 型から D 型へと移行した。5 月から N 型となり、9、10 月は小冷水渦の通過に伴って、一時的に小規模 B 型のような流路も出現したが、平成 24 年（2012）年 1 月まで概ね N 型流路が続いた。2 月上旬から B 型基調へ移行し、2 月下旬～3 月上旬にかけて C 型となった。

潮岬沖の黒潮は、4 月下旬～5 月中旬まで離岸傾向で推移し、5 月中旬～6 月中旬まで接岸、6 月中旬～7 月中旬まで離岸傾向となった。7 月中旬以降は接岸傾向となり、平成 24（2012）年 1 月中旬まで接岸傾向が持続した。1 月中旬～2 月中旬にかけては黒潮小蛇行の東進に伴い、離岸傾向が見られたが、2 月中旬以降、再び接岸傾向となった

2. 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温は、冬季から低水温傾向で経過し、4～5 月は全層で平年並～やや低めとなった。6 月は雨の影響が強く、表層では低水温・低塩分傾向が見られたが、

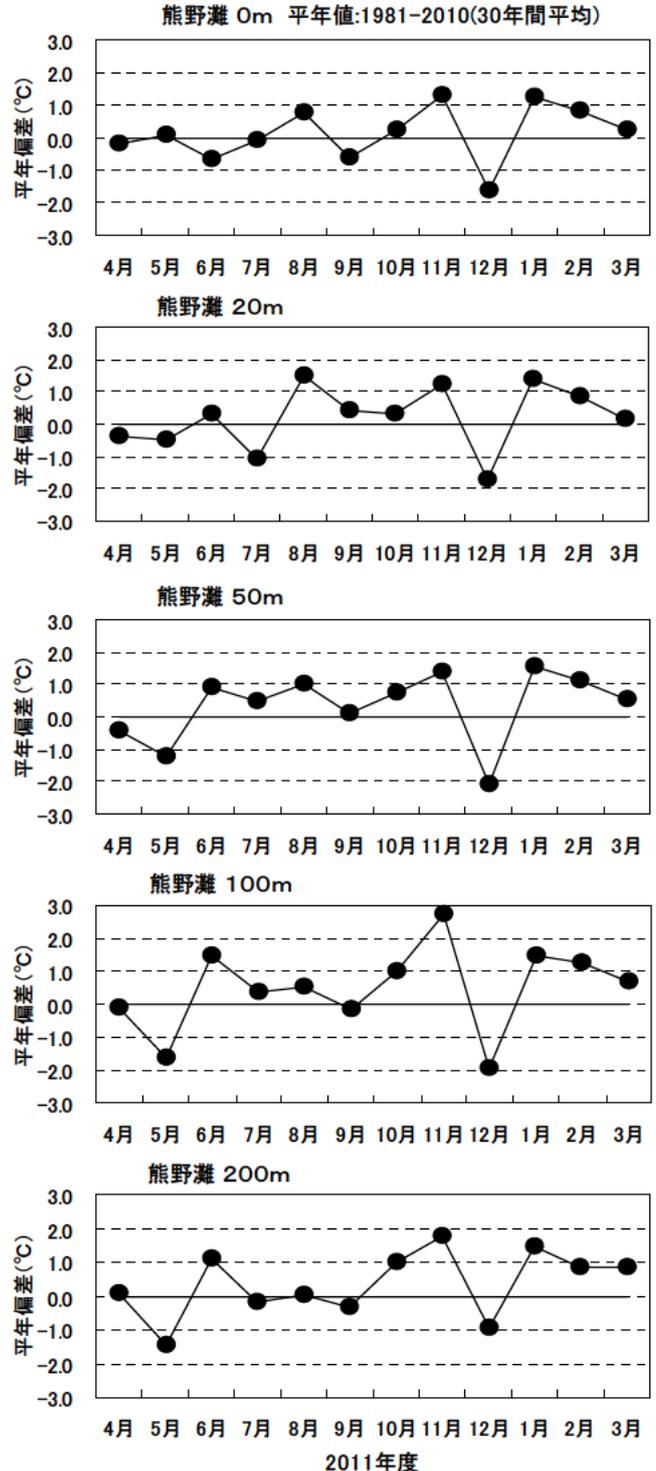


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の平年偏差

50m以下の層では高め傾向であった。7月は概ね全層において、沿岸で低め、沖合は高めであった。8月の表層水温は岸沿いで高め、沖合は低めで、下層ではどの測点においても高め傾向であった。9月は主に台風の影響により降温が進み、全層で平年並～やや低めとなった。10月は表層では平年並となったが、50m以下の層ではやや高めであった。10月末に、黒潮小蛇行の一部の東進に伴う暖水波及のため昇温し、11月には全層で高め傾向となった。11月末には降温が進み、平年並となり、12月は全層で低めとなった。下旬に暖水波及が見られ、概ね平年並の水温へと昇温した。1月上旬に熊野灘に強い暖水波及があり、全層で高め傾向となった。2月に入っても降温は遅れ、2月後半になるまで全層で高めであった。3月には表層～100m層まではほぼ平年並となったが、200m以下の層ではやや高めの水温が持続していた。3月中旬以降は黒潮の内側逆流の影響により、やや高めで推移している。

浜島の定地水温は、4月上旬は平年よりやや低め、中旬にはやや高めとなったが、4月下旬～5月上旬はやや低めとなった。5月中旬～5月下旬はやや高めとなり、5月末～6月下旬は低めで経過した。6月末～7月下旬は平年より1～3℃高めとなった。台風の通過に伴い、7月下旬～8月上旬はやや低めとなった。8月中旬は平年より2～3℃高くなったが、8月下旬～9月上旬は降温が進み、平年並～やや低めとなった。9月中旬は再び高め傾向となった。9月下旬～10月中旬まではほぼ平年並、10月下旬～11月はやや高めで推移した。12月に入るとほぼ平年並となった。1月中旬に、熊野灘に強い暖水波及が見られ、2月中旬まで浜島の定置水温も高め傾向となった。2月下旬～3月中旬以降は平年並で推移している。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、表層では3、4月は平年よりやや低め、5月は平年より高めとなり、6月はやや低めとなった。7、8月は平年より高め、9月はやや低め、10月は平年並、11月は高めであった。12月は平年より低め、1、2月はやや低めであった。10m層では、3～6月は概ね平年並、7月は平年よりも低め、8月は高め、9月は平年並、10月はやや低め、11月は高めであった。12月は平年よりもやや低め、1、2月は低めであった。底層では3、4月は平年並、5、6月は平年よりもやや低めであった。7月は平年よりもやや低め、8～10月はやや高め、11月は高めであった。12～2月は平年よりもやや低めであった。

塩分は表層では3月は平年並、4月は平年より高め、5、6月は平年よりもかなり低め、7月は平年並、8月は平年よりやや高め、9月はかなり低め、10月はやや

高め、11月はやや低め、12月は平年並、1月はやや高め、2月は平年並であった。10mでは、3～7月は平年並、8月は平年よりかなり低め、9月はやや低め、10～12月は平年並、1月はやや高め、2月は平年並であった。底層では3～12月は平年並、1月はやや高め、2月は平年並であった。

D0(溶存酸素)は平年並を基調に推移した。表層では5月は平年よりもやや高め、7月は平年よりもかなり低め、8、9月は低め、10月はかなり低め、11月は低め、12月は平年より高め、1、2月は低めであった。10mでは3～6月は平年並、7月は平年より高め、8、9月は平年並、10、11月はやや低め、12月は平年よりやや高め、1、2月は低めであった。底層では3～7月は平年並、8月は平年よりやや低め、9、10月は平年並、11月はかなり低めであった。12月は平年よりやや高め、1、2月はやや低めであった。6月の観測時には湾中央の底層で貧酸素水塊が形成されており、12月になって消滅するまで持続した。

白子の定置水温は、3、4月は平年並で経過し、5月上旬は平年より高め、中旬は平年よりかなり低めとなり、下旬には平年並となった。7月は平年より高め、8～11月はやや高めで経過した。12月上旬は平年より高め、12月中旬～1月上旬は平年並、1月中旬～2月下旬はやや低めで経過した。

4. 海況に関する特記事項

平成23年(2011)年4、5月に熊野灘沿岸域で、珪藻の一種 *Thalassiosira diprocyclus* の大量発生に起因する緑色の繊維状物質が浮遊し、操業中の巻き網などに絡んで揚網時の障害となった。

5月の熊野灘沿岸定線観測において、熊野灘南部沿岸では50m以下の層で非常に低い水温が観測された。当時、黒潮は直進流路で潮岬に接岸していたため、熊野灘の南部沿岸で中層湧昇が起こっていたとみられる。

9月上旬には、台風12号が日本列島を通過したことにより、熊野灘においても広い範囲で一時的に降温が進んだ。また、熊野灘、伊勢湾では塩分の低下も顕著であった。

関連報文

三重県(2012)：平成23年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)